

Q：現時点での富岡町地域の放射線量はどうなっていますか？

富岡町 警戒区域のモニタリング結果（全体図 1m高さ）

別紙5



A：12月16日、原子力災害対策本部で、東電福島第一原発事故収束に向けた工程表ステップ2（冷温停止状態の達成）の終了を確認した。

野田首相が記者会見で「発電所の事故そのものは収束に至ったと判断される」と事故収束を宣言した。

原子炉を安定的に冷やすステップ1は7月に完了。ステップ2は当初、来年1月中旬までに終わる予定だったが、首相は年内完了を公約していた。

対策本部は1～3号機の炉の温度は9月以降100度下回り、今月15日現在は38～68度と報告された。放射性物質の外部への飛散も毎時0.6億Bqで、事故時の1/1300万に減少した。発電所の敷地境界で追加的に被曝する線量も最大年間0.1mSvと、目標の年間1mSvを下回った。

但し、工程表のステップ2が収束したのであって、終息したのではない。今までは事故現場である福島第一原発内の収束への闘いであったが、これからは除染に着手し、来年度予算を含め1兆円超え準備し、来年4月を目途に作業員3万人以上を確保し進めるとした方針を打ち出した。

当然住民も作業員として率先して参加すべきだし、故郷再生には全力を尽くすべきだ。

政府の方針は原発から半径20km圏内の警戒区域と20km圏外にある計画的避難区域を年間放射線量に応じて三つの区域再編し、段階的に住民の帰還を認める方針をしめた。

除染作業にどの位かかるのか、廃炉には30～40年かかると見込まれ、住民の帰還までは数十年を要するとみられる地域もあり、まさに2世代、3世代に渡って難民生活を強い